

■ 巴水・夢二・暁斎 ～ニッポンの美紙展～ －HAIBARA Art & Design 咲き誇る粋と技－



河鍋暁斎《千代紙「牡丹」》株式会社榛原蔵
－「巴水・夢二・暁斎～ニッポンの美紙展～」より－

■ 近代の美術 ー油彩画ー【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 琳派 I ー光悦・宗達・宗雪ー【古美術】

■ みんなでたのしむびじゅつかん
何をのせる？何をいれる？【近現代工芸】

■ 文学と美術の出会い【水彩・素描・版画】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 企画展Topics 蓮田修吾郎ー世界を拓く窓
- 展覧会回顧 没後40年 鴨居玲展 第2弾 写真の中の鴨居玲
- 0才からのファミリー鑑賞会
- VRシアターに新作が登場！
- 8月の行事予定
- 学芸室こぼれ話

企画展(第7～9展示室)

巴水・夢二・暁斎 ～ニッポンの美紙展～ -HAIBARA Art&Design 咲き誇る粋と技-

主催／北陸中日新聞、石川テレビ放送、石川県立美術館 後援／石川県、金沢市、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局
特別協賛／東海東京証券 特別協力／株式会社榛原、三鷹市美術ギャラリー 企画協力／青幻舎プロモーション

8月8日(土)～9月13日(日) 会期中無休

「榛原一はいばら一」は、文化3年(1806)の創業から220年にわたって東京・日本橋に店舗を構える和紙舗です。創業時には、熱海製の雁皮紙をはじめとする高級和紙を主力に、小間紙と呼ばれる装飾用の和紙製品(千代紙、書簡箋、熨斗など)を販売してきました。明治時代になると、高度な木版摺りの技術とデザイン性を兼ね備えた榛原の商品は、日本を代表する工芸品として海外からも高く評価され、国内外の博覧会で受賞をかさねました。

また、榛原の当主たちは代々、同時代の芸術家たちに商品のデザインを依頼し、ときにその活動を支援しました。特に明治期前半に活躍した三代目・榛原直次郎(中村平三郎)は、日本美術界と深いつながりを持ち、柴田是真や河鍋暁斎、川端玉章らと親しく交流を結びました。続く四代目も竹久夢二や川瀬巴水らと協働し、現代に続く洗練されたデザインを次々と生み出しながら榛原デザインの基礎を築きました。

本展では、榛原と芸術家たちとの関わりに焦点を当て、おもに明治から昭和初期にかけて製作された千代紙、団扇絵、絵短冊、絵封筒、ぼち袋、熨斗など、和紙製品の数々を紹介します。また、上記で紹介した芸術家たちによる肉筆の画稿や榛原ゆかり資料などあわせて約500点の作品を公開いたします。初公開となる川瀬巴水の水彩画をはじめ、貴重なコレクションの品々をお楽しみください。

【観覧料】

一般 1,400(1,200)円
高校・大学生 900(700)円
小中学生 600(400)円

※(一)内は前売り・20名以上の団体料金

※未就学児無料

※石川県立美術館友の会会員は会員証を提示で本人のみ団体料金で入場可、石川県立美術館優待券をお持ちの方は優待券を提示で本人のみ無料で入場可。

※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者福祉手帳、ミライロIDをご提示の場合、ご本人様は前売り料金で入場可、付き添いの方1名は観覧無料。

※本展は、石川県立美術館の単独主催ではないため、右記以外の通常、美術館で適用されている各種割引／優待は対象外です。

※2階コレクション展は本展半券提示で観覧料が割引(団体料金)になります。

【関連イベント】

・記念講演会

「榛原の聚玉コレクションとその魅力」
日時…8月8日(土)開演13時30分(開場13時)

登壇者…株式会社榛原代表取締役社長 中村達男氏
三鷹市美術ギャラリー学芸主査 富田智子氏(講師)

会場…美術館ホール

定員…先着約200名、聴講無料

※聴講には本展の観覧券(観覧済み半券可)が必要です。

・ワークショップ「和紙の産地 越前和紙の紙漉きを体験しよう」
可動式の漉き船を使用した本格的な和紙作り体験！
出来上がった和紙はその場で持ち帰り頂けます。

日時…8月22日(土)

受付時間…10時30分～16時

(随時受付)

会場…美術館講義室

対象…どなたでも

※事前申し込み不要

参加料…1,000円～1,200円(プランによる)

企画…柳瀬良三製紙所

※参加には本展の観覧券(観覧済み半券可)が必要です。

※体験いただきました和紙は体験終了後20分程度での引き渡しとなります。

お問い合わせ

北陸中日新聞事業部

電話076-233-4642

(平日10時～17時)



川端玉章《千代紙「模様合わせ」》



竹久夢二《木版絵「葡萄」》



川瀬巴水《大嶋波浮港》

※いずれも木版多色摺、株式会社榛原蔵

古美術(第2展示室)

琳派Ⅰ―光悦・宗達・宗雪―

8月8日(土)～9月13日(日) 会期中無休

琳派とは、俵屋宗達(生没年不詳)、尾形光琳(1658～1716)、酒井抱一(1761～1828)に代表される絵師の系譜で、桃山時代の終りから江戸時代後期にいたるまで継承されました。3人の絵師たちの間には、直接の師弟関係はなく、世代や地域を隔てながらも私淑によって結び付き、琳派が形成されたといわれています。華やかな装飾性を特色とし、草花図や、日本の古典に取材した作品が多く残されています。

私淑から形成されたといいましたが、近年では宗達の後継者として俵屋工房を継承した俵屋宗雪と、その次世代に活躍した喜多川相説の活動も知られつつあります。宗雪は加賀藩の御用を受けており、相説は不明なものの北陸地方に伝存作例が多く、一時期北陸にも拠点を置いていた可能性があります。今回

は後期展示(琳派Ⅱ―相説と草花図の広がり―9月19日～10月25日)と併せて、北陸にもゆかりのある琳派の作品をご紹介します。

前期展示の主な作品としては、宗達とともに琳派の礎を築いた本阿弥光悦の県文《色紙貼交秋草図屏風》(個人蔵)や、宗達の名品として名高い県文《横檜図屏風》に加え、俵屋宗雪の県文《群鶴図屏風》(個人蔵)などをご覧ください。



石川県指定文化財《横檜図屏風》俵屋宗達

前田育徳会尊経閣文庫分館

近代の美術―油彩画―

8月8日(土)～9月13日(日) 会期中無休

今回は前田育徳会コレクションから近代の洋画に焦点をあてて展示します。近代洋画コレクションを入手経緯でみると、まず明治43年(1910)の東京本郷の前田邸への明治天皇行幸に合わせて、洋館に飾るために前田利為が購入したものが主となります。これらはフランスと日本美術の橋渡しに貢献した美術商・林忠正の旧蔵品約300点から24点を、野口駿尾と黒田清輝に依頼し選ばせたものです。また利為がヨーロッパ滞在中に描かせた肖像や買い付けたものにも優品が多く、重要な位置を占めます。なかには婚姻に合わせた持参品や画家本人からの寄贈品などもあります。

入手経緯別に作品を紹介しましょう。林忠正旧蔵品には、ウジェーヌ・ブーダンの《洗濯婦図》があります。ブーダンがクロード・モネを伴って戸外写生に出かけたことが後の印象派誕生につながり、印象派の

先駆けとも呼ばれました。また、19世紀フランス・アカデミズムの巨匠J・A・ジェロームの《亜刺比亜人二馬ノ図》は、小品ながら卓越したその技量と抑制のきいた物語性に目を見張ります。事前に実物を見た利為は、「最も妙なる如く感ぜたり」と日記にしたためています。

利為がフランス滞在中に購入した作品では、《枢機卿と兵士》が見る者の眼を惹くでしょう。本作は当時フランスで流行していた枢機卿画で、高い写実力と風刺の効いたユーモラスな表現を持つ優品です。その他、前田家が収集した19世紀から20世紀初頭にかけての香り高い、油彩画名品の数々をぜひ展示室でご確認ください。



ウジェーヌ・ブーダン《洗濯婦図》

水彩・素描・版画(第4展示室)

文学と美術の出会い

8月8日(土)～9月13日(日) 会期中無休

日本では平安時代の半ばから、源氏物語をはじめとする物語を巻物の形態に仕立てた絵巻が制作され、鑑賞者はイメージ化された画面を見ながら物語を楽しんできました。文字によってあらわされた文学の世界が、絵画をはじめ美術と出会って色や形を得ることで、互いに補い合い、刺激し合う中、新しい手法を生むなど豊かな表現を展開してきたのです。

江戸時代には木版印刷本が普及し、物語本での挿絵は浮世絵師の手によって制作され人気を博します。その後、近代に入り明治20年代後半から現れた、本や雑誌の巻頭に付され小説の一場面を盛り立てる役割の口絵も、浮世絵の絵師によるもので多くの読者の関心の的になりました。時代を経るごとに本の挿絵や口絵の様相は、文芸誌の刊行や印刷技術の発

達など、その担い手が浮世絵師から日本画家や洋画家へと交替するなど大きく変化していきます。挿絵は、その後もいろいろな形を変えて新聞小説や雑誌の挿絵など、さまざまな役割を果たしてきました。

一方、文学と美術の共演の中で、大正3年(1914)に出版された雑誌『月映』をはじめとした詩と版画が結びついた世界は、詩魂が躍動し独特の魅力を発しています。また、書物の表紙やカバーなどのデザインをする装幀の仕事は、読者を文学作品の世界へといざなう美の世界です。

本展示では文学と美術が出会う中で、互いに刺激し影響をし合うことで、豊かな実りとなって生まれた口絵や挿絵、装幀などの文学を装う作品をご紹介します。



武内桂舟《枕物語 第二部》幸田露伴 著

近現代工芸(第5展示室)

みんなでたのしむびじゅつかん 何をのせる?何をいれる?

8月8日(土)～9月13日(日) 会期中無休

この夏の「みんなでたのしむびじゅつかん」は、作品の使いかたに注目し、「なにをのせようか?」「何をいれようか?」など、用途を考え、会話をしながら楽しんでいただける作品が皆さまをお迎えしています。

今回の「わくわくわーくしーと」(会場内で無料配布)は石黒宗磨《黒釉坏》「昭和20年(1945)」について準備いたしました。

作品に添えてある簡単な説明には、「お酒を入れて飲むいいさな盃のことです。何かちよつと食べるものを入れてもいいでしょう。さあ、このうつわ、あなたなら何をいれましょう?そしてこのうつわをこの部屋の作品どれかと組み合わせで展示するならどうしますか?ワークシートでその組み合わせを考えてみてください!」とあります。

実際に観覧用にと提出いただいたわーくしーとを

紹介しますと

問…何に使用しますか?何をいれましょうか?

・おつまみや枝豆を入れるのに使います。家族とゆつくり過ごす時間に使いたい。

問…展示を考えるならどのようにおきましょう?言葉や絵で教えてください。

・木の台に置き、柔らかな照明を当て、黒色の形や美しさが引き立つように置きたい。

とあります。ありがとうございます。

机?お皿?箱?おおきなもの、ちいさなもの。さあ、自分なら何をのせよう?何をいれよう?作品から受ける感じ方、発見などを、自分はもちろん、家族と、友人と美術館に一緒に訪れた方と楽しんでいただけますように。是非「わくわくわーくしーと」も役立ててください。

皆様のご来館をお待ちしております!



石黒宗磨《黒釉坏》

蓮田修吾郎ー世界を拓く窓

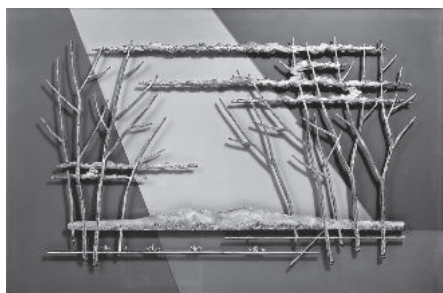
9月20日(日)～10月25日(日)

優品選

8月8日(土)～9月13日(日) 会期中無休

金属×工芸×彫刻×建築×デザイン＝金属造型！
金沢市出身の蓮田修吾郎（1915～2010）は、金属工芸・彫刻・建築の分野を横断する独自の作風を確立した作家です。石川県立工業学校（現・石川県立工業高等学校）卒業後、東京美術学校（現・東京藝術大学）で鑄金を学びつつ、彫刻やデザインなどにも目を向けながら作品制作をおこなっていました。
卒業後は、日展や日本現代工芸美術展、グループ展などを舞台に作品を発表していきます。浮彫やスクリーン形態の作品で評価され、方壺シリーズで立体構成を試み、自身の表現を追求しました。また、ドイツを訪問し造型作品が環境に調和していることに衝撃を受けてからは「建築と接点を持った金属造型」がテーマに加わりました。美術・工芸が社会の中で果た

す役割についての思考を反映したモニュメントをさかんに制作しながら、自身が主宰した日本金属造型研究所を基盤に、日独の国際交流を促進する活動を精力的に行いました。広い視野をもち、金工の概念を飛び出すように確立させた「金属造型」は、蓮田が拓いた独自の世界といえるでしょう。
本展は、蓮田修吾郎の軌跡を、その代表作はもちろん、貴重な初期作品やデザインの仕事、関連資料などと併せて紹介するものです。蓮田の人と活動を深く掘り下げる、これまでにない機会となるでしょう。ぜひご来館いただき、「金属造型」の世界を味わっていただければ幸いです。



蓮田修吾郎《白銅浮彫「湖畔」》1999年
個人蔵（石川県立美術館寄託）撮影：濱崎敏彦

季節の優品を紹介する日本画からは、白山の自然や歴史民俗の研究にも力を注いだ玉井敬泉による《白山図》を紹介します。本作は白山の山頂付近の広々とした空間を、六曲一双という大きさをいっばいに活用した屏風です。前景にはハイマツやハクサンイチゲ、ミヤマキンバイ、クルマユリなど高山植物を配し、白山の植生を見ることが出来ます。白山の生態を知り尽くした作者による、短い夏の景色をご覧ください。
油彩画分野からは、朝倉雅子《貴方に跪いて》を紹介します。一人の男が飛ばないよう必死に紐で引き留めている風船の中に、欺瞞に満ちた人々がぎっしりと描かれています。その人だかりの中央で、天使が神父に花束を捧げる場面をとらえたシニカルな世界観が表現されています。作者は、いつか来る死を恐れ

つつも生きる人間の本質を描きたいと考え、唯一無二な作風での表現を続けています。
彫刻分野からは特集展示に合わせ、物語を題材とした作品を紹介します。今まさに落下していくイカロスの姿を捉えた、清水良治《イカロスの墜落》。蠅でできた翼で飛ぶイカロスは、夢中になって飛ぶあまり太陽に近づきすぎて墜落してしまうという物語です。清水はこの題材に何度も取り組んでいますが、それは画家や彫刻家にあこがれながら、満足できない自分になぞらえたものでありました。



朝倉雅子《貴方に跪いて》

展覧会回顧

没後40年 鴨居玲展 第2弾

写真の中の鴨居玲 -内なるCamoy 外なるCamoy- 富山栄美子撮影

4月25日(土)～5月24日(日) 会期中無休

これまで数多く開かれてきた鴨居玲の回顧展ですが、鴨居本人のポートレートをこれほど多く紹介するのは初の試みでした。「画家のポートレートをメインに据えた展覧会」というのは見たことがなく、不安を抱えながらの準備でした。しかし、ご来場の皆様からの反響は大きく、アンケートのご意見からも確かな手ごたえを感じることができました。改めて富山氏の写真が描き出した鴨居玲の魅力を実感した次第です。いくつか印象的なご意見(大要)を挙げてみます。

「絵画だけでは知り得なかった鴨居の人間性を写真によって知ることができました。」

「自らの人生を考えさせられ、生涯をかけて取り組むテーマは何なのか自らに問わずにいられなくなります。」

「東北から展覧会を見たくてきました。来てよかった! 益々惹かれます。」などなど。

鴨居玲の作品は自らの内面をさらけ出しているだけに、作家の人となりを知ることはその芸術の本質を理解することに繋がる、との意図から企画したものです。没後40年を経てその人気は衰えることなく、様々な伝聞が鴨居玲像を作りあげている今日、目の前の作品と写真に映し出された姿が、鑑賞者にとっての真実の鴨居玲といえるでしょう。

最後に、本展の開催を快く承諾してくださり、全てを我々に委ねてくださった富山栄美子氏を始め、ご協力をいただきました関係各位に改めて御礼申し上げます。



0才からのファミリー鑑賞会

赤ちゃんから小学生までの小さなお子さんと、美術館デビューをしてみませんか?

全国さまざまな美術館で乳幼児からの鑑賞会をサポートしている、NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事である富田めぐみ氏を講師にむかえ、美術館で楽しく作品を鑑賞します。それぞれの年齢に応じた鑑賞の仕方、ご家族と一緒に展示室をまわり、のびのびじつくりと楽しみましょう。例年はコレクション展示室で開催している鑑賞会ですが、今年度は企画展示室にて開催の特別展「蓮田修吾郎ー世界を拓く窓」でおこないます。

日時…9月26日(土) ①15時～16時

9月27日(日) ②10時～11時

③13時～14時

講師…富田めぐみ氏

(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)

対象…0才～小学生までのお子さんとそのご家族

定員…各回5組20名程度(先着順)

参加費…高校生以下無料、ご家族内おとな2名まで無料

申込…8月9日(日)13時～インターネット

(Peatix)にて受付開始予定

定員に達し次第締め切り



申込フォーム (Peatix)

昨年度の鑑賞会より

VRシアターに新作が登場！

当館2階コレクション展示エリアで毎日上映中のVRシアターに、3月24日(火)から、新作が加まりました！

「石川が育んだ「漆聖」松田権六の世界」(約15分)

あらゆる漆芸技法に通じ、近代漆芸に偉大な芸術世界を築き上げたことから、漆の神様「漆聖」と呼ばれた松田権六。その生涯や作品の魅力を、代表作《蓬萊之棚》を中心にをご紹介します。

これで当館の映像作品は計5作品となりました。上映スケジュールは次の通りで、「石川が育んだ「漆聖」松田権六の世界」は各回の最後に上映されます。

① 10時30分／② 13時30分／③ 14時50分／④ 16時10分

1回の上映で、5作品を上映(すべてあわせて75分程度)

※入退場自由

※詳しくは公式ウェブサイトをご覧ください。



VRシアターについて



「松田権六の世界」
ダイジェスト映像
(YouTube)



石川が育んだ「漆聖」
松田権六の世界

学芸室こぼれ話

昨年、仕舞い込んでいた対の漆塗碗を使い始めました。加飾はなく、朱と黒の上下グラデーション。蓋のない、ごく普通の形です。机に置き、持ち上げる。口を付けて食べる。当たり前の動作がとてもスムーズ。機能的な形に惚れ惚れします。自家製の汁物もランクが上がる…ような？

寺川 和子(学芸主幹兼学芸第二課長)
「うつわのかたち」
ずいぶん昔、抹茶碗を手捏ねでつくったことがあります。見た目を整え、釉薬をきれいに付けることに終始し、出来上がった茶碗は、お茶が点てにくい、持ちにくい、飲みにくい、の三重苦(本当はもっとある)で、使える代物ではありませんでした。お茶の稽古で用いていた普段使いの茶碗も、考え抜かれ受け継がれてきた形だったのだと腑に落ち、その後明らかに茶道具の見方が変わりました。



8月の行事予定

■対話で！作品鑑賞会

毎月第2日曜日、作品についておしゃべりしながらコレクション展示室を楽しめる日「のびのび鑑賞デー」の恒例開催です。学芸員のサポートのもと、参加者同士で対話しながら作品鑑賞を行います。一人で鑑賞する時とは違った鑑賞の楽しさを味わってみませんか。

日時：8月9日(日) 11時～11時30分

* 申込不要

集合場所：2階 コレクション展示室前

定員：10名程度(先着)

料金：要コレクション展観覧料

* 友の会会員のみなさまは、会員証のご提示で無料

■輪島塗復興プロジェクト関連特別展

「輪島塗ー漆文化を後世にー」トークショー

日時：8月1日(土) 13時30分～15時

* 要申込・参加無料

場所：美術館 ホール

出演：小森邦衛氏(重要無形文化財保持者「髹漆」保持者)、田中義光氏(蒔絵)、水谷内修氏(沈金)、水口咲氏(髹漆)

定員：200名



トークショー申込

蓮田修吾郎 ー世界を拓く窓

企画展Topics

会期：令和8年9月20(日)～10月25日(日)

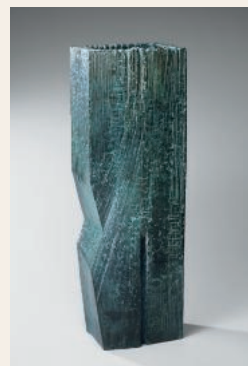
会期中無休



《白銅浮彫「豊穡なるライン」》
1983年 石川県立美術館蔵



《鑄銅「森の鳴動」》 文化庁許可済
1961年 日本芸術院蔵



《青銅「容」》
1963年 東京都現代美術館蔵



《龍斑スクリーン》
1937年 東京藝術大学蔵



《北方領土返還祈念シンボルモニュメント「四島のかけ橋」》
1981年 (北海道根室市・納沙布岬)



《悠麗》
1991年 (石川県金沢市・金沢駅西広場) ©石川県観光連盟

※いずれも蓮田修吾郎 作

次回の展覧会

令和8年9月19日(土)
～10月25日(日)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室
加賀藩の美術工芸		琳派Ⅱ ー相説と草花図の広がりー
第3・4・6展示室	第5展示室	企画展示室
優品選 【近現代絵画・彫刻】	県美工芸の 新しい仲間たち ー新収蔵品展ー	蓮田修吾郎 ー世界を拓く窓 9月20日(日)～10月25日(日)

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

8月3日は第1月曜日より

コレクション展観覧無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

8月の休館日は
4日(火)～7日(金)

石川県立美術館だより
第514号(毎月発行)
2026年8月1日発行

〒920-0963

金沢市出羽町2番1号

Tel:076(231)7580

Fax:076(224)9550

URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。

広告代理店が運営する 大人のためのデザインスクール

01 | オンラインで好きな時間にマイペースで学べます

02 | スキルアップ・副業・趣味に活かれます

キテンスクールの
オンライン授業なら...

広告
詳しい資料の
請求はこちら

Design Life

キテンスクール 〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目14-17-501 tel:072-668-3275 株式会社ウィット